

JST AND CHORUS VIRTUAL SESSION – WORKING TOGETHER TO MONITOR OPEN SCIENCE: Q&A

番号	質問者	質問	回答者 (敬称略)	回答	備考
1	匿名	JSTはなぜグリーンを推奨しているのでしょうか	中島律子	国の方針として、オープンアクセスに対応するため学術機関リポジトリの整備等が行われていることから、これに対応したものです。	
2	匿名	OA率を高めるための方策は何かありますでしょうか	中島律子	特効薬的な方策はなかなかありませんが、研究者への周知を丁寧に行うとともに、まずは現状把握・モニタリングを行い、状況に合わせて対応を進めています。CHORUS利用もその一つです。	
3	匿名	ターゲットとなるOA率などありますでしょうか。また、JSTのOA率は他と比べて高いのでしょうか。	中島律子	義務化ですので文字通りには100%ですが、推進上ターゲットという形で目指しているような値はありません。正確な数字は承知しておりませんが、4割は低い方ではないと認識しています。	
4	匿名	ファンディング機関の情報の記載がなぜ重要なのかよくわかりません。ファンディング機関の方でこの情報を用いて集計することがあるのでしょうか。論文の資金としてはさまざまな形態があり、書き方も多種多様です。	中島律子	公的資金による研究成果については、その利活用を可能な限り拡大することを我が国のオープンサイエンス推進の基本姿勢とするという国の方針をうけて、JSTではオープンサイエンス方針を定めています。そのため、CHORUSの情報も参照しつつ、OA状況の調査を行っています。論文での記載方法も多種多様であるところ、出版社等の取り組みでメタデータへの記載も増えていっていると認識しています。	
5	匿名	マシュー・ソルター様へ質問です。米国では、どれくらい (how many institutions)の機関がCHORUSを採用しているのでしょうか。中国など、日本以外のアジアの機関にも活用されていますでしょうか。その場合、どのような使われ方が多いですか。	マシュー・ソルター	ご質問ありがとうございます。現在、アメリカでは正確にCHORUSを採用している機関は4カ所となっております。他に日本では7カ所があります。今では日本以外にAPACでの正確な採用機関はおりませんがアジアだけではなく世界的に新しいパートナーを積極的に募集しております。	
6	匿名	非常に安価とのお話がありましたが、日本の大学での導入はあまり進んでいません。価格以外の障壁にどんなものがあるとお考えでしょうか？	竹内比呂也	オープンアクセスに対する考え方なのではないかと思っております。日本の場合はオープンアクセスに対する長い時間の変化のなかでグリーンOAに対する拘り、OAという考え方が対出版社という形で進んできたということことが影響しているのではないかと、OAを実現していく際には出版社と切り離された形でOAは実現すべきという考え方が強いのではないかと、CHORUSの形は出版社と協力関係を持つことによってOAの実現を図るという考え方のため、そちらに対する抵抗感があるのではないかと推測しています。	ライブ中継からの書き起こし
8	匿名	リポジトリデータベースにおけるDOIの付与は現在どのくらい進んでいるのでしょうか	竹内比呂也	千葉大学の取り組みでいえば、植物標本のデータについては2019年にDOIをすべて付与しました。このDOIはCrossRefではなく、Jalc DOIのものです。いずれにしてもDOIをきちんと付与しておくことで今後のデータの利用の可能性は高まるというように考えています。	ライブ中継からの書き起こし
9	匿名	中島様 質問ではないのですが、今後の予想としておっしゃられたOAになっていない論文が分かる事によってオープンになっていくようになればいい流れになるという点、同感いたしました。	中島律子	コメントありがとうございます。この点では、機関リポジトリや日本のDOI機関であるJapan Link Center等との連携も効果的ではないかと思っております。	

JST AND CHORUS VIRTUAL SESSION – WORKING TOGETHER TO MONITOR OPEN SCIENCE: Q&A

番号	質問者	質問	回答者 (敬称略)	回答	備考
10	匿名	竹内先生へ質問です。ORCID ID取得の促進とはどのような取り組みをなさっているのでしょうか。	竹内比呂也	オフィシャルにはアクションを起こしていません。著者IDは大変面倒な問題だと考えております。国内でも様々なIDが存在している状況の下で、すでに様々存在するID、例えばKAKENの研究者番号などと協調できない中で大学として独自に導入することが妥当かということについてきちんと考えないといけないだろうと思います。国全体で使われているようなIDとORCID IDは、各大学の努力ではなく国全体の方針として協調できるような環境をうまく作っていただける可能性があるかということを常日頃から考えています。	ライブ中継からの書き起こし
11	匿名	ソルターさんへのご質問です。CHORUSは、出版社もOAに参画する枠組みとして、とても素晴らしいと思います。FAや機関にとってのメリットは分かりやすいのですが、出版社にとってはどのようなメリットがあるのでしょうか。出版社にどのようなメリットがあるのかが、この枠組みをさらに強力にするポイントではと思いました。	マシュー・ソルター	大変面白いご質問ありがとうございます。他の出版社を代理にできませんがCHORUSの創設組織一員であるAPSの場合ではCHORUSに参加する一番のメリットはそれを通して研究者・研究機関に弊社のジャーナルのコンテンツについて正確なデータを提供することが出来き、お客さまが悩んでいるコンプライアンス問題の解決に役に立て、APSの使命の一部「To advance and diffuse the knowledge of physics」を実現することができることです。	
12	匿名	尾鷲様への質問です。研究成果公開にあたってのコンプライアンスを定める際、なにか参考にしたガイドラインなどありますか？	尾鷲瑞穂	出版や公開に関してはCOPE（出版倫理委員会）のガイドラインを参考にしていますが、研究所の構成員の混乱を招かないよう、所内で既に定まっている他の倫理規定のガイドラインと相反さないよう調整するほうが重要になっています。	
13	匿名	尾鷲様へ質問です。「CHORUS Dashboardによる助成機関の把握」について、情報企画室殿以外（例：研究部門）にも結果を共有されていますか。その場合、研究部門の関心事項はどこにあるのでしょうか。	尾鷲瑞穂	ダッシュボードの情報をスライドにまとめて、定期的に所内イントラで公開しています。研究部門からは、研究データへのDOIの付与の割合に関心のある方が多いようです。どこで（どのリポジトリを使って）DOIを取得したのかにも関心があるようです。	
14	匿名	尾鷲先生へ スライド12ページについて、インパクトファクターの高低によってOA誌の割合が異なることの影響はないでしょうか。	尾鷲瑞穂	環境分野は、GoldOAのオプションがあるジャーナルが多く、この調査を行ったとき、オプションがないジャーナルはNature 1誌だけでした。確かに、インパクトファクターが高いと購読型のジャーナルが割合として多いと思いますが、弊所の場合はAPCを支払えば出版社のサイトでオープンアクセスにすることができるジャーナルへの掲載が大半であったことからこのような形で結果をまとめました。	
15	匿名	本日の資料は後日公開していただけますでしょうか？	事務局	CHORUSのWebサイトにて公開いたしました。 https://www.chorusaccess.org/events/jst-and-chorus-virtual-session-working-together-to-monitor-open-science/	